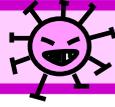


# 感染症に気をつけよう!

2015年【12月号】

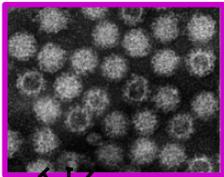
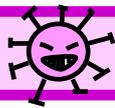
## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症	流行状況		説明
感染性胃腸炎	やや流行	増加	ノロウイルスなどの感染が原因で、主な症状は嘔吐・下痢等です。下の様に、この冬は特に注意が必要です。【15.11号】
咽頭結膜熱(プール熱)	流行	増加	今の時期としては大変多いです。鼻水・目やに等からうつります。手洗いを習慣づけ、タオルは専用にしましょう。【チラシ】
RSウイルス感染症	やや流行	やや減少	冬場の風邪の一つですが、繰り返しかかったり重症になる例もあります。予防には、正しい手洗いが大切です。【15.10号】
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	やや流行	やや増加	風邪に似た症状ですが、腎炎等の合併症もみられます。例年、年末にかけて増えるので注意しましょう。【15.3号】

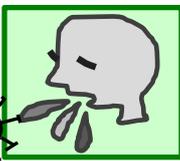
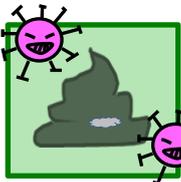
【解説付き既刊号等】 ← クリック

## 今、気をつけたい感染症 ノロウイルスによる感染性胃腸炎

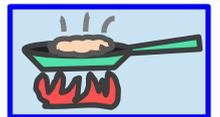


■今シーズンは、ほとんどの人が免疫を持っていない、新しい種類のノロウイルス(遺伝子型 G II.17 の変異型)が、全国的に流行の中心になると言われています。市内でも過去に、変異型のウイルスによる大流行が起きているため、十分な注意が必要です。

■ノロウイルスは患者の便や嘔吐物(吐いた物)に含まれていて、手や食物を介して、ごく



少量のウイルスが口から体内に入っただけで感染します。嘔吐物が乾燥するとノロウイルスが空気中にたどり、これを吸うことでも感染します。



■症状が治った後や、感染しても症状が出なかったケース(不顕性感染)でも、便の中にウイルスが排出されています。保育園等での集団発生も起きています。

■予防には、正しい手洗いが重要です。特に、患者の便や嘔吐物を処理する時には、感染を広げてしまう恐れがあるので、適切に行いましょう。消毒には次亜塩素酸ナトリウムを使います。また、食品の調理では、中心部までよく加熱(85~90℃で90秒以上)すれば安心です。

